

富山市任海宮田遺跡試掘調査概要

— 県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査(3)—

1998年3月

富山市教育委員会

例 言

- 1 本書は、県営公害防除特別土地改良事業神通川流域第3次地区に先立つ任海宮田遺跡試掘調査概要である。
- 2 調査は、富山県農地林務部耕地課・富山県富山農地林務事務所耕地課（農地保全班）の依頼に基づき、国庫補助金及び県費補助金の交付を受けて、富山市教育委員会が主体となって実施した。
現地調査はAからD地区は、平成9年8月7日から平成9年1月9日にかけて行なった。
E・F地区は、平成10年3月2日から平成10年3月31日にかけて行なった。
遺物整理及び報告書作成は、平成9年8月29日から平成10年3月31日にかけて行なった。
- 3 調査は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員 堀沢祐一、同 近藤顕子が担当した。
- 4 調査にあたり、文化庁、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導を得た。また、新保地区、任海地区、新保用土土地改良区の協力を得た。
出土品整理にあたり、安達志津、内田亜紀子（財団法人富山県文化振興財団）にご教示を得た。記して謝意を表します。
- 5 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。
- 6 本書の執筆は、堀沢・近藤が行い、各々の責は文末に記した。

目 次

I 遺跡の位置と環境	1
II 調査に至る経緯	2
III 調査の概要	5
IV まとめ	23
写真図版	35
報告書抄録	47



試掘調査区域区劃図（1：5,000）

I 遺跡の位置と環境

任海宮田遺跡は富山市街地の南方約6kmの富山市任海地内に所在する遺跡である。遺跡は任海字宮田割、大塚割、桜町割など広範囲にまたがり、全体の面積は約570,000㎡にわたる。遺跡は、東を流れる神通川支流熊野川と西を流れる神通川とによって挟まれた扇状地上に立地する。標高は36~38mを測り、南から北へ向って緩やかに傾斜している。航空写真からは扇状地には、幾筋もの自然流路跡が観察でき、遺跡の立地に河川の影響が関わっているといえる。本遺跡近隣の富山総合運動公園内遺跡群（栗山椿原遺跡、吉倉A・B遺跡、任海遺跡等）においても同様に流路跡が検出されている。

周辺には縄文から中世を中心とした遺跡が存在する（第1図）。縄文時代中期の伊豆宮Ⅱ遺跡は神通川・熊野川複合河岸段丘（大沢野段丘）上にあり、晩期以降になると段丘上から扇状地へと遺跡が移り、悪王寺遺跡、栗山A遺跡、大利原敷遺跡等が営まれる。弥生時代には黒瀬大屋遺跡があり、古墳時代には、7世紀代の伊豆宮古墳の円礫積横穴式石室から、須恵器・馬具・刀子・紡錘車等が出土している。

奈良~平安時代になると、扇状地では大規模な集落が営まれるようになる。本遺跡を含め、任海遺跡、吉倉B遺跡、南中田D遺跡、栗山A遺跡がそれである。このうち本遺跡からは「城長」「貳」等近隣の遺跡から共通して出土する墨書土器や、「樂田」「観音寺」「寺」などの墨書土器、瑪瑙製の帯飾りなどが出土している。



1. 任海宮田遺跡、2. 吉倉B遺跡、3. 友杉遺跡、4. 任海遺跡、5. 任海鎌倉、6. 南中田遺跡
7. 任海砂田遺跡、8. 栗山塚、9. 栗山椿原遺跡、10. 南中田C遺跡、11. 南中田B遺跡、12. 南中田A遺跡
13. 栗山A遺跡、14. 大利原敷遺跡、15. 伊豆宮Ⅱ遺跡、16. 惣在寺晩寺、17. 円教寺遺跡、18. 伊豆宮古墳
19. 二俣遺跡、20. 石田北遺跡、21. 上野遺跡、22. 石田遺跡、23. 経力遺跡、24. 吉岡遺跡、25. 悪王寺遺跡
26. 若竹町遺跡、27. 下熊野遺跡、28. 安養寺遺跡、29. 宮保遺跡、30. 辰尾遺跡、31. 上熊野遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡図（1：25,000）

文献資料では確認できないが寺院、官衙などの中核的存在がこの地にあったことが推測できる。

11世紀代には集落は少なくなるが、中世になると古代集落の上に再び集落が形成される。この地域は後白河法王宣（『賀茂別雷神社文書』寿永3年・1184）にみえる「上賀茂神社領越中国新保御厨」の比定地のひとつとされている。「新保御厨」比定地にはこの他に滑川新保説があり有力視されているが、最近の考古学上の発掘成果から、富山市新保周辺には古代において寺院を主体としたと推定される墓田開発が見られ、中世荘園形成への基盤整理がなされていた状況がうかがえることから「新保御厨」比定地富山新保説が再浮上している。なお、「新保御厨」は、延徳2（1490）年まで賀茂社と関係があったとされている。また、任海池原寺・惣在寺などが存在していたとされているが、詳細は不明である。

近世には、本遺跡近隣の熊野川や神通川支流樋橋川に棧橋、船着場があったことが伝承等で伝えられており、当時の主要幹線道路であった飛騨街道、そこからの分岐点の八尾道、岩木道等の存在があったことから、平安時代以降、任海宮田遺跡を含むこの地域が水陸交通の要所としても重要な位置にあったことが推測できる。

（近藤）

Ⅱ 調査に至る経緯

1. 調査に至るまで

県営公害防除特別土地改良事業は、カドミウム汚染土の復元工事である。土壤汚染対策地域は富山市・婦中町・八尾町の1市3町に広がっており、面積は1500.6haにも及ぶ。

復元事業は、対策区域を神通川上流から第1次・第2次・第3次区域の3地区に分割し、昭和55年度から実施されている。この調査は県営公害防除特別土地改良事業（神通川流域第3次地区）に伴うものである。工事面積は、富山市・婦中町にまたがり436.9haである。このうち富山市分は107.7haである。工事は平成4年度から開始されており、平成16年度完了予定で現在進行している。

平成3年に、富山県農地林務事務所から第3次事業地区内の埋蔵文化財所在状況についての照会があり市教育委員会は、吉倉B遺跡・任海宮田遺跡・友杉遺跡の3遺跡が調査対象であるとした。対象面積は50haである。

平成4年には、秋から遺跡の所在しない区域の工事が着工され、平成8年度以降の遺跡所在区域についての調査対応・工事工法の変更などの協議が行われた。

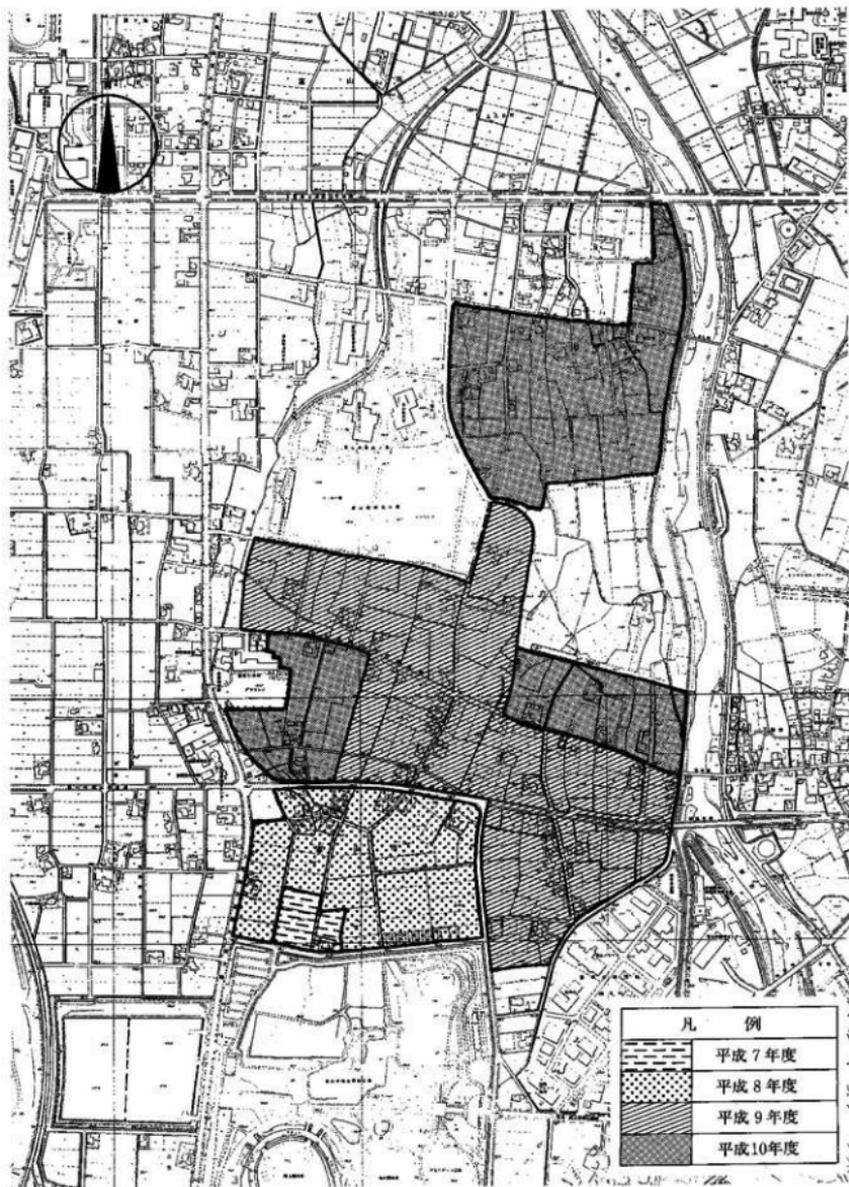
その結果、試掘調査は富山市教育委員会が主体となって平成7年度から平成10年度にかけて4年計画で実施されることになった。

平成7年度には、平成8年度工事区域内の吉倉B遺跡の約12,000㎡の調査が実施され、11,000㎡に古代、中世の遺跡の所在が確認された。

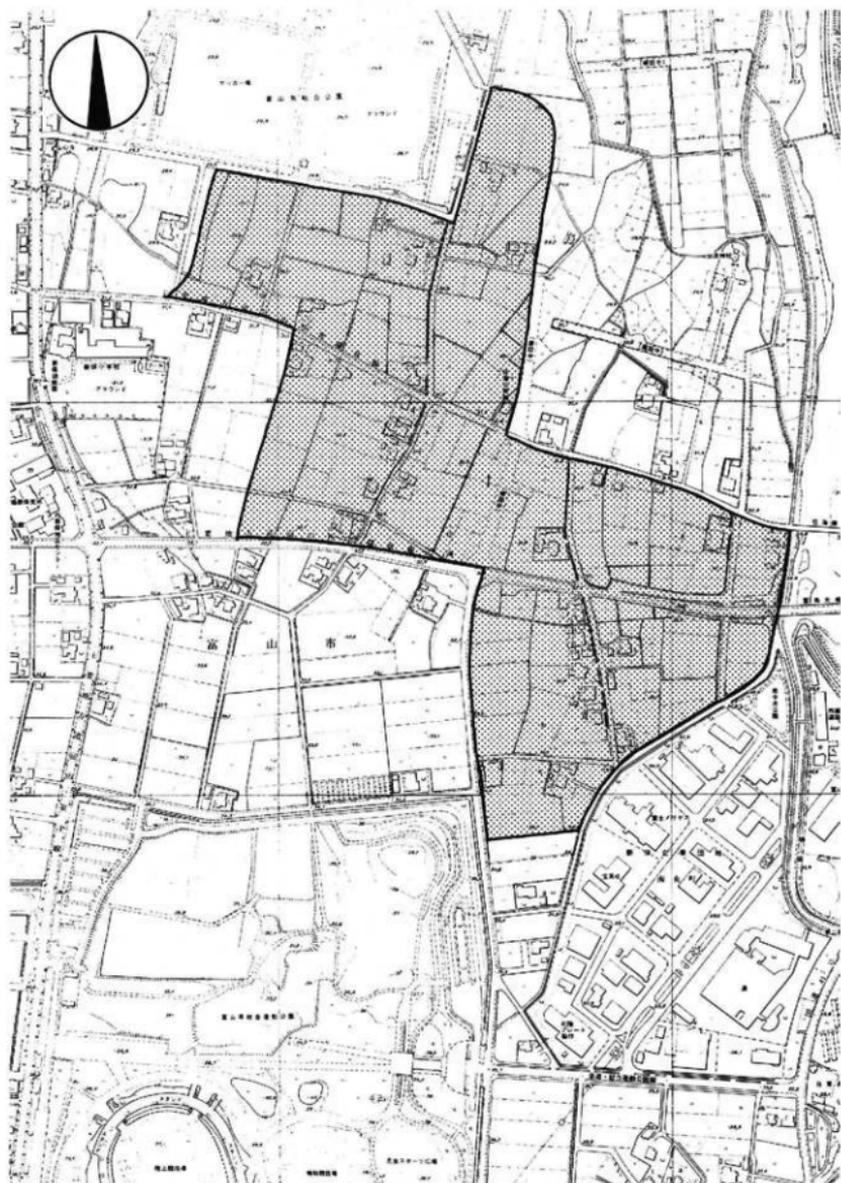
平成8年度には、吉倉B遺跡、任海宮田遺跡に該当する約105,000㎡を対象として実施された。平成7年度と同様に古代と中世の遺跡の所在が確認された。

2 調査の経過

平成9年度調査対象区域は、平成8年度調査区の東側及び北側に隣接する区域211,300㎡である。この区域



第2図 試掘調査対象範囲 (1 : 10,000)



第3圖 遺跡所在範圍 (1:4,000)

すべては任海宮田遺跡に該当する。調査は調査対象区域が広域にわたるため便宜状A地区からF地区に区分けし、調査区の南部分にあたるA地区から平成9年8月7日に着手した。A地区の調査終了後、引き続きB～F地区の調査に取りかかった。B地区からD地区は平成10年1月9日に調査終了した。E・F地区は平成10年3月2日から開始し、同年3月31日に終了した。 (掘沢)

Ⅲ 調査の概要

1 基本層序

基本層序は、1層：水田耕作土 2層：黒褐色砂質土（中世、古代遺物包含層） 3層：におい黄褐色砂質土（古代遺物包含層） 4層：黄褐色砂質土（古代遺構形成面） 5層：黄褐色礫層となる。2層の上面から流路などの掘り込みが確認される。また、85T付近や111T付近などでは1層直下に遺構が確認される。

2 自然地形

調査区内では幾つもの流路跡が確認されている。流路方向は基本的に南方向から北方向に流れている。流路が確認されたのは93Tから82Tにかけて。96Tから138T（幅約10m）にかけてのものは東方向にややカーブを描きながら流れている。その他は120Tから119T（幅約30m）、147Tから134Tの方向にかけてである。

今回の調査区でも礫の隆起が確認された。礫は66Tから62Tにかけて約10m幅で東にカーブしながら走っている。そのような礫の隆起は32Tから35Tへ、90Tから87Tへ、1Tから53T通り76Tへ、60Tから蛇行しながら69、32Tを通り120T方向へ流れている。

3 遺構（第4～8図）

試掘トレンチは東西方向に入れることを基本として、186本を設定し、遺構、遺物の確認を行なった。ほぼすべてのトレンチから古代、中世の遺構や遺物が検出された。

古代は、堅穴住居、溝、穴などが確認されている。堅穴住居は18・31・43・56・57・81・73・76・78・97・117・118・120・122・127・128Tで約20棟検出した。古代遺構は調査区のほぼ全域に広がりを見せるが、11～15・24～27・56～61・67・94・97・127・128Tに特に集中して検出される。遺物の出土量も多い。

中世は、溝、井戸などがある。41Tからは石組みの井戸が検出されている。103・112Tでは掘立柱建物の柱穴と思われるものがある。

4 遺物

古代、中世、近世の遺物がコンテナ箱に100箱になるほど出土量は膨大である。

古代の遺物はほぼすべてのトレンチから出土している。須恵器、土師器、内黒土器などである。8世紀代から10世紀代のもので、9世紀代が中心である。

中世の遺物は1・5・11・15～19・23～25・31～32・38・40～41・44～45・50～51・53・61・63～66・74・79～83・85～86・89～92・54・68・70～73・77・95～96・98～100・102～105・107～113・115・118～122・124・129～132・135～139・141・143・145～147・149Tから珠洲焼、土師質土器などが出土している。時期は12世紀代から15世紀代である。

今回の調査で注目されるのは125点の墨書土器である。それについて概要を述べる。

墨書土器は、56T、57T、131Tから出土している。そのほとんどは56Tからのものである。墨書土器の種類は須恵器(40.8%)、土師器(43.2%)、内黒土器(16%)で、須恵器は蓋(35.3%)、杯(62.7%)、碗(2%)、土師器は碗(81.5%)、皿(11.1%)、内黒土器はすべて碗に記載される。

墨書内容は、「城長」が36点(28.8%)、おそらく「城長」と思われるもので「城□」が8点(6.4%)、「□長」が9点(7.2%)、これらを含めると「城長」は53点になる。「貳」が22点(17.6%)、「□音寺」(おそらく「観音寺」)、「有成」1点である。残りの墨書については不明である。

(1)須恵器(第12~14図)

蓋 端部はわずかに出て丸いものがほとんどである。つまみは宝珠状のもの(25・74)とボタン状のもの(32・29・31)があり、つまみが付かないもの(5)もある。5は「城長」。23は「城」。115は「長」と思われ、おそらく「城長」と書かれていたのだろう。25・29・74は「貳」。31もおそらく「貳」とされる。32は不明。ほとんどが内側に書かれる。時期は9世紀後半から10世紀前半。

杯 高台付き(91・67・34・110)と無台に分かれる。底部は36・61・58が糸切りで、その他はヘラキリによる。91は「有成」。67は「城長」。110は「城」。97は「長」。6は「城」であろう。34・27・50・30・28・36・52・60は「貳」。46も「貳」であろう。その他は不明。58のみヘラ書きで「成」と考えられる。すべてが底部に書かれる。9世紀後半。

碗 33である。内側に「貳」。

(2)土師器(第15~17図)

碗 口縁端部及び底部の形態により区分される。a口縁端部が外反し、底部をケズり出さないもの(12・77・72)。口径は11~13cm代。器高は3.4~4.4cm。b口縁端部が外反し、底部をケズり出すもの(15~18・21・22・82~84・90)。口径は11cmと12cm代。最小で11.8cm、最大で12.8cmである。器高は4cm前半代である。底径は5cm代におさまる。c口縁端部が外反せず、底部をケズり出さないもの(1・2・14)。口径は12.0~12.8cm。器高は3.7~4.0cm。底径は4.6~5.4cm。d口縁端部が外反せず底部をケズり出すもの。(3・13・19・20・65・79・89)。口径は12cm代と13.0cm。器高は3.8cmから5.6cmで、4cm代が多い。11・73・94は底部をケズり出すが、底部のみで口縁端部の形態は不明。10は底部からの立ち上がりケズリ調整。底部はすべて糸切りによる。墨書は12・18は「城」。10・11・13は「長」。おそらく「城長」と思われる。107が「□音寺」(「観音寺六十」が付近の調査から過去に出土しており、たぶん「観音寺」であろう。)24は「寺か」、59は「貳」、89、114は不明。これら以外のものはすべて「城長」。おおむね9世紀後半。

皿 すべて高台が付く。高台は断面が四角形のもの(85)、三角形のもの(69)、端部を丸くするもの(78)がある。すべて底部は糸切りによる。69・78は内外面とも赤彩が施される。墨書はすべて「城長」。時期は9世紀後半。



第4図 A地区試験調査トレンチ位置図 (1:1,000)



第5図 A地区試験調査トレンチ位置図 (1:1,000)



第6図 B地区耐震調査トレンチ位置図(1:1,000)



第7図 C地区試掘トレンチ位置図 (1:1,000)



第8図 D地区試験調査トレンチ位置図 (1:1,000)

任海宮田遺跡試掘調査A地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
1T	溝・穴	須恵器(杯・ヘラ記号「×」あり)・土師器(甕)・珠洲焼・麻骨器
2T	溝	須恵器(甕)・土師器(椀)・越中瀬戸焼・麻骨器
3T	溝	須恵器(甕)・越中瀬戸焼・麻骨器
4T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(椀)
5T	穴	土師器(甕)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・麻骨器
6T	溝	須恵器(蓋・杯・双耳甕)・土師器(甕)・近世陶磁器・麻骨器・鉄製品
7T	溝・穴(遺構密)	須恵器(杯)・土師器・越中瀬戸焼
8T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器(椀)・内黒土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
9T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器・近世陶磁器
10T	溝・穴	土師器(杯)・近世陶磁器
11T	溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋・杯)・土師器(椀・皿・甕)・内黒土器・珠洲焼(甕)・越中瀬戸焼・鉄棒・鉄製品
12T	溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器・越中瀬戸焼
13T	溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器(甕)・近世陶磁器
14T	溝・穴(遺構密)	須恵器(杯・甕)・土師器(皿・甕)・鉄製品
15T	溝・穴	須恵器(蓋・甕)・土師器(杯)・珠洲焼(甕)・鉄製品
16T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(甕)・珠洲焼(甕)
17T	溝・穴	珠洲焼(甕)
18T	竪穴住居・溝・穴(遺構密)	須恵器(杯)・土師器(椀・甕)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・桃梗
19T	溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋・杯)・土師器(赤彩椀)・内黒土器・珠洲焼(甕)
20T	溝・穴	須恵器(杯・甕)・土師器(皿・甕)
21T	溝・穴	土師器(甕)
22T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(椀)
23T	溝・穴(遺構密)	須恵器(杯)・土師器(椀)・珠洲焼・越中瀬戸焼・鉄製品・炭
24T	溝・穴(遺構密)	土師器(甕)・内黒土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
25T	溝・穴(遺構密)	須恵器(皿・甕)・土師器(椀・皿)・越中瀬戸焼(皿)・鉄製品
26T	溝・穴(遺構密)	須恵器・土師器(椀)・越中瀬戸焼・砥石
27T	溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋・甕)・土師器(椀・皿・甕)
28T	穴	土師器(椀)
29T	溝・穴	須恵器(蓋)・土師器(椀)
30T	穴	
31T	竪穴住居・溝・穴(遺構密)	須恵器(蓋)・土師器(皿・椀)・内黒土器・土縄・珠洲焼(甕)・近世陶磁器
32T	遺構なし	珠洲焼(甕)

任海宮田遺跡試掘調査A地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
33T		須恵器
34T	穴	
35T	穴	土師器(甕)・近世陶磁器
36T	溝・穴	須恵器・土師器(椀)・土師質土器・近世陶磁器
37T	穴	土師器(皿)・近世陶磁器・炭
38T	溝・穴	土師器(甕)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
39T	穴	須恵器(甕)・土師器
40T		土師器(杯)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
41T	溝・穴・井戸跡	須恵器・土師器(甕)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器
42T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(椀)・近世陶磁器
43T	竪穴住居・溝・穴(遺構密)	土師器(皿)・近世陶磁器
44T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器(甕)・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
45T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器(甕)・珠洲焼(近世陶磁器)・越中瀬戸焼
46T	溝・穴(遺構密)	土師器(杯)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
47T	溝・穴	
48T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器(甕)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
49T	溝・穴	珠洲焼(甕)・近世陶磁器(皿)・越中瀬戸焼(皿)・鉄製品
50T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器(椀)・内黒土器・珠洲焼・近世陶磁器
51T	溝・穴(遺構密)	須恵器(皿)・土師器・珠洲焼・近世陶磁器(皿)・越中瀬戸焼(皿)・鉄製品
52T	溝・穴	須恵器(甕・杯)・土師器
53T	溝・穴	珠洲焼・近世陶磁器

任海宮田遺跡試掘調査B地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
56T	竪穴住居・溝跡	須恵器(甕・杯・皿・甕・壺蓋つまみ・双耳瓶)・土師器(椀・皿・甕)・内黒土器(赤彩)・黒書土器(「口音中」「城長」「城口」「口長」「有成」「貳」)・ヘラ書土器(「成」?)・製塩土器・鉄製品・炭
57T	竪穴住居・溝跡	須恵器(甕・杯・皿・甕・壺・双耳瓶)・土師器(椀【赤彩】・高台付椀・皿・甕)・内黒土器・黒書土器(「貳」)・珠洲焼(甕)・鉄製品
58T	溝跡・穴	須恵器(甕・杯・高杯・甕)・土師器(椀・甕)・内黒土器
59T	溝・穴(遺構密)	須恵器(甕・杯・椀・甕・壺)・土師器(椀【赤彩】・皿・甕)・製塩土器
61T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(甕・杯・甕)・土師器(椀・高台付皿・甕)・珠洲焼(甕)・鉄製品・炭
62T		須恵器・土師器
63T	溝	須恵器(甕・杯)・土師器(甕)・土師質土器

任海宮田遺跡試掘調査B地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
64T	溝・穴（遺構密）	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（椀・甕）・珠洲焼（摺り鉢・鉢）・土師質土器・青磁・近世陶磁器・鉄製品
65T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
66T	穴	須恵器・土師器・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
67T	溝・穴	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器（椀・皿・甕）・内黒土器・鉄製品・鉄滓
74T	穴・溝	須恵器（杯）・土師器・土師質土器・近世陶磁器
79T	穴	須恵器（蓋・杯）・土師器・珠洲焼（摺り鉢）・越中瀬戸焼（摺り鉢）・鉄製品
80T	穴・溝（遺構密）	須恵器（蓋・杯・甕）・土師器・珠洲焼（甕・摺り鉢）近世陶磁器
81T	竪穴住居・穴・溝	須恵器（杯・甕）・土師器（甕）・珠洲焼（甕）・土師質土器・近世陶磁器
82T		須恵器（蓋・杯）・土師器・土師質土器・近世陶磁器
83T	穴	須恵器（杯）・土師器・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器・磁石・鉄製品
84T	溝・穴	須恵器・土師器・近世陶磁器（皿）
85T	溝・穴	土師器・珠洲焼（摺り鉢）・土師質土器
86T	溝	須恵器（杯）・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
87T	溝・穴	土師器・天目
88T	溝・穴	須恵器・土師器・近世陶磁器・越中瀬戸焼・土人形の胴
89T	なし	須恵器（杯・甕）・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
90T	溝・穴	須恵器・珠洲焼・越中瀬戸焼・近世陶磁器・石臼・鉄製品
91T	溝・穴	須恵器（甕・杯）・土師器（高台付皿）・珠洲焼（片口鉢）・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
92T	溝・穴	須恵器・土師器（甕）・珠洲焼・近世陶磁器・越中瀬戸焼
93T	溝・穴	須恵器（杯）・土師器

任海宮田遺跡試掘調査C地区トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
54T	溝・穴	土師器・珠洲焼
55T	溝・穴	須恵器・土師器・炭
60T	溝・穴	須恵器・土師器（甕）・土師質土器・越中瀬戸焼
68T	溝	土師器・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
69T		
70T		須恵器・土師器・土師質土器・越中瀬戸焼
71T		須恵器（甕）・土師器（甕）・土師質土器・近世陶磁器
72T		須恵器（杯）・土師器（椀・甕）・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
73T	竪穴住居・溝	須恵器・土師器・土師質土器・鉄滓

任海宮田遺跡試掘調査C地区トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
75T	溝・穴	須恵器・土師器(輪・甕)・越中瀬戸焼
76T	竪穴住居・溝・穴	土師器
77T	溝	須恵器・土師器・珠洲焼(甕)・近世陶磁器・越中瀬戸焼
78T	竪穴住居・溝・穴	土師器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
94T	溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕・甕)・土師器(輪・甕)・土師・越中瀬戸焼・鉄製品・炭
95T	溝・穴	須恵器・土師器・珠洲焼・土師質土器
96T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器・珠洲焼・土師質土器・越中瀬戸焼
97T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕・甕)・土師器(輪・甕)・鉄製品
98T	溝・穴	須恵器(杯・甕)・土師器・珠洲焼(摺り鉢)・土師質土器・越中瀬戸焼・銅型
99T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器・珠洲焼・越中瀬戸焼
100T	溝・穴	土師器・珠洲焼(摺り鉢)・土師質土器・近世陶磁器
101T		須恵器(甕)・土師器・近世陶磁器(摺り鉢)
102T	溝・穴	土師器・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
103T	竪立柱建物・溝・穴	須恵器・土師器・珠洲焼・土師質土器
104T	溝・穴	須恵器(杯・甕)・土師器・土師質土器・近世陶磁器
105T	溝・穴	須恵器(杯・甕)・土師器(輪)・珠洲焼・土師質土器・青磁・越中瀬戸焼・鉄製品
105T	溝	
107T	穴・溝(遺構密)	須恵器(杯・甕)・土師器【赤彩】・珠洲焼(摺り鉢)・土師質土器・越中瀬戸焼・鉄製品
108T	溝・穴	珠洲焼(甕)・土師質土器・近世陶磁器
109T	溝・穴(遺構密)	須恵器(甕)・珠洲焼(甕)・土師質土器・鉄製品
110T	穴	土師器・土師質土器
111T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器・珠洲焼・土師質土器
112T	竪立柱建物・溝・穴	土師器・珠洲焼
113T	溝・穴	須恵器(甕・杯)・土師器・珠洲焼・土師質土器

任海宮田遺跡試掘調査D地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
114T	溝・穴	須恵器・土師器・近世陶磁器・鉄製品
115T	溝・穴	須恵器・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
116T	穴	須恵器・土師器(甕)・近世陶磁器・鉄製品
117T	竪穴住居・溝・穴・(遺構密)	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器・近世陶磁器
118T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器(甕)・珠洲焼(摺り鉢)・近世陶磁器・越中瀬戸焼・鉄製品
119T	溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器(甕)・珠洲焼・近世陶磁器・越中瀬戸焼

任海宮田遺跡試掘調査D地区各トレンチ遺構・遺物一覧

	検出遺構	出土遺物
120T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
121T	溝・穴	須恵器・土師器・珠洲焼(鉢)・近世陶磁器・鉄製品
122T	竪穴住居・溝・穴・(遺構消)	須恵器(杯・高杯・甕)・土師器・珠洲焼(甕)・土師質土器・越中瀬戸焼
123T	溝・穴	須恵器・土師器・越中瀬戸焼
124T	溝	須恵器(甕・杯)・土師器・土師質土器・近世陶磁器
125T	溝・穴	須恵器(蓋)・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
126T	溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器・近世陶磁器
127T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器(高台付皿・鏡・甕)・近世陶磁器・鉄製品
128T	竪穴住居・溝・穴	須恵器(蓋・杯・甕)・土師器(甕)・近世陶磁器・炭
129T	溝・穴	須恵器(蓋・杯)・土師器(甕)・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
130T	溝・穴	須恵器(甕・杯)・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
131T	溝・穴	須恵器(蓋・杯)・土師器(甕)・播磨土器・珠洲焼(摺り鉢)土師質土器・近世陶磁器・鉄製品
132T	溝・穴	須恵器(蓋・甕・蓋)・土師器(鏡・甕)・珠洲焼・近世陶磁器・鉄製品
133T	穴	須恵器(蓋・甕)・土師器・青磁・近世陶磁器・越中瀬戸焼
134T	溝	土師器(鏡)・近世陶磁器
135T	溝・穴	須恵器(杯)・土師器・土師質土器・近世陶磁器
136T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(中皿)・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
137T	溝・穴	須恵器(蓋・杯)・土師器(甕)・珠洲焼(甕)・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼・五輪塔
138T	溝・穴	須恵器(杯・蓋)・土師器・珠洲焼(甕・摺り鉢・鉢)・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
139T	溝・穴	須恵器(甕)・土師器(甕)・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器・越中瀬戸焼
140T	穴	土師器・鉄滓
141T	溝・穴	土師器(甕)・珠洲焼・土師質土器・近世陶磁器
143T	溝・穴	須恵器・土師器・土師質土器・近世陶磁器
144T	溝・穴	須恵器(杯・甕)・土師器・五輪塔
145T	溝・穴	須恵器(蓋・杯)・土師器・珠洲焼(摺り鉢)・土師質土器・近世陶磁器
146T		須恵器(杯)・土師器・珠洲焼・近世陶磁器
147T	溝	土師器・珠洲焼(摺り鉢)・青磁・近世陶磁器
148T	溝・穴	土師器・鉄製品
149T	穴	珠洲焼・越中瀬戸焼
150T	穴	須恵器・土師器
151T	穴	須恵器(蓋・杯・甕)・近世陶磁器

(3)内黒土器 (第17図)

椀 口縁端部が細く立ち上がるもの(70・75)。口径は12cm代、器高は3cm代、底径はともに4.8cm。底部は糸切り。口縁端部がやや厚めに立ち上がるもの(8・71)。8は底部ヘラケズリ。口縁端部がやや外反するもの(76・125)。125は口径18.4cm、器高5.85cm、底径6.8cm。墨書されたものなかで最大である。底部ヘラケズリ。口縁端部が丸いもの(86~88)。口径は12~13cm代。ともに底部は糸切りによる。9・80は底部のみ。9は糸切り。80はヘラケズリによる。底径が7.4cmでこのなかでは最大である。すべて外面口ロナデ、内面ミガキを施す。9・87は「城」、86は「長」、それ以外は「城長」。時期は9世紀中ごろから10世紀。(堀沢)

Ⅳ まとめ

今回の調査からは、9~10世紀代を中心とする集落と12~14世紀代の集落の2時期の文化面を確認した。古代の集落は遺構、遺物の出土が集中している地点が6箇所あり、ブロック状に集落が形成されているものと考えられる。

また、注目されるのは56Tの竪穴住居などから墨書土器が125点集中して出土したことである。このトレンチに近接した地点(第10図・A地点)で66点の墨書土器が確認されており、合わせて191点にも及ぶ。これまでに本遺跡では数多くの調査が実施されているが、出土する墨書土器も数点であり、このトレンチ周辺が本遺跡の中心的な場所と推定できる。

・「城長」墨書土器について

今回出土した125点のうち53点は「城長」と書かれおり、墨書土器全体の43%を占めている。須恵器、土師器、内黒土器に墨書され、各土器の点数は須恵器8点(うち蓋4点、杯4点)、土師器33点(うち椀29点、皿4点)、内黒土器11点(すべて椀)となる。土師器の椀が全体の55%を占めており最も多い。各土器の墨書の部位は土師器椀は外底は19点、外側面10点。皿はすべて外底。須恵器では蓋では外蓋2点、内蓋2点。杯はすべて外底である。内黒土器はすべて外側面。

「城長」の字体は一樣ではない。「城」は「成」の部分に2パターン見られる。1は「成」の字体を崩さないもの。2は「成」の字体を崩し、5画目から6画目にかけて続けて書くもの。「長」は上半分を行書風に書くもの(イ~ニ)と草書風に書くもの(ホ~リ)があり、下半分は6画目から8画目を書く際に同時に書き丸くするもの(イ・ホ)と逆三角形にするもの(ロ・ヘ)。7画目から8画目にかけて続けて書き「く」の字にするもの。(ハ・ト)。7画目を省略するもの(ニ・チ)。6画目から8画目を続けて書くもの(リ)。このように9パターンの字体の変化が読み取れる。この字体の違いは書き手の差であると考えられ、幾人かの識字者で「城長」と書かれていたものと推定できる。「城長」の意味は、役職名や人名などと考えられるが、詳細なことまでは言及できない。

これまでの調査から、任海地区では奈良・平安時代に大規模な水田開発が行われていたことがわかってきており、その中心的な役割をはたした人物が「城長」と考えられる。

また、「城長」墨書土器は56Tの以外からも出土している（第10図）。56Tから約1km離れた吉倉B遺跡（D地点）から2点。同遺跡からも3箇所（A～C地点）で見つっている。このように「城長」墨書土器が広く分布しており、「城長」と密接に関係のある集落がいくつかあったことが窺える。任海地区を開発する人々にとって「城長」は重要な意味をもっていたのだろう。

（堀沢）

城長

城	長
1 城	イ 長 ロ 長 ハ 長 ニ 長
2 城	ホ 長 ヘ 長 ト 長 チ 長 リ 長

第9図 「城」「長」字体分類表・「城」「長」書き順



▲ 今回の試掘調査で集中して出土した地点 A～C地点 任海宮田遺跡 D地点 吉倉B遺跡

第10図 「城長」墨書土器出土地点（1：5,000）

任海宮田遺跡出土土器一覽 1

	出土位置	取文	種別	器種	種別	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	備考
1	56T	城長	土師器	椀	黒書	外底	12.4	3.7	5.4	糸切り
2	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	12.8	4.3	4.6	糸切り
3	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	12.0	3.8	5.5	糸切り
4	56T	?	内黒	椀	黒書	外側面	10.7	—	—	
5	56T	城長	須恵器	蓋	黒書	外蓋	12.6	2.4	—	
6	56T	?	須恵器	杯	黒書	外底	11.8	4.0	8.0	ヘラ切り
7	56T	長か	須恵器	蓋	黒書	内蓋	12.2	—	—	
8	56T	城長	内黒	椀	黒書	外側面	12.8	3.8	6.0	
9	56T	口	内黒	椀	黒書	外側面	—	—	4.8	糸切り
10	56T	口長	土師器	椀	黒書	外底	—	—	—	糸切り
11	56T	長	土師器	椀	黒書	外底	—	—	4.8	糸切り
12	56T	?	土師器	椀	黒書	外側面	11.6	3.55	5.0	糸切り
13	56T	長	土師器	椀	黒書	外側面	12.0	4.2	4.6	糸切り
14	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	12.0	4.0	5.8	糸切り
15	56T	城長	土師器	椀	黒書	外底	12.6	4.3	5.7	糸切り
16	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	12.0	4.1	5.4	糸切り
17	56T	城長	土師器	椀	黒書	外底	12.2	4.1	5.8	糸切り
18	56T	城口	土師器	椀	黒書	外底	11.8	4.2	4.8	糸切り
19	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	13.0	4.6	5.7	糸切り
20	56T	城長	土師器	椀	黒書	外底	12.5	4.0	5.2	糸切り
21	56T	城長	土師器	椀	黒書	外底	12.2	4.0	5.4	糸切り
22	56T	城長	土師器	椀	黒書	外側面	12.1	4.3	5.7	糸切り
23	56T	城か	須恵器	蓋	黒書	内蓋	12.7	—	—	
24	56T	?	土師器	椀	黒書	外底	—	—	5.4	糸切り
25	56T	貳	須恵器	蓋	黒書	外蓋	12.1	3.4	—	
26	56T	?	土師器	椀	黒書	外底	—	—	5.4	
27	56T	貳	須恵器	杯	黒書	外底	—	—	7.5	ヘラ切り
28	56T	貳	須恵器	杯	黒書	外底	—	—	6.6	ヘラ切り
29	56T	貳	須恵器	蓋	黒書	内蓋	11.2	2.9	—	
30	56T	貳か	須恵器	杯	黒書	外底	—	—	6.8	ヘラ切り
31	56T	貳	須恵器	蓋	黒書	内蓋	12.0	2.4	—	
32	56T	貳か	須恵器	蓋	黒書	内蓋	11.4	2.6	—	

任海宮田遺跡墨書土器一覽 2

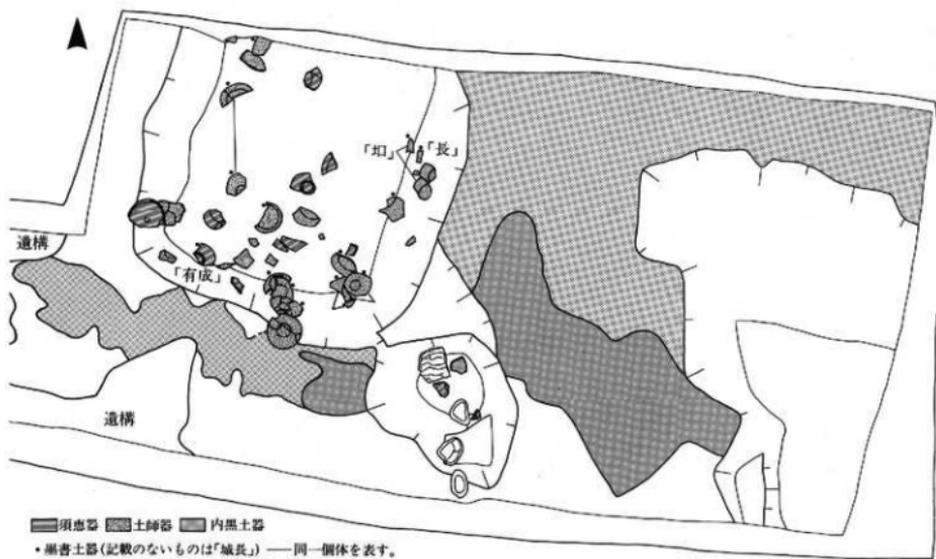
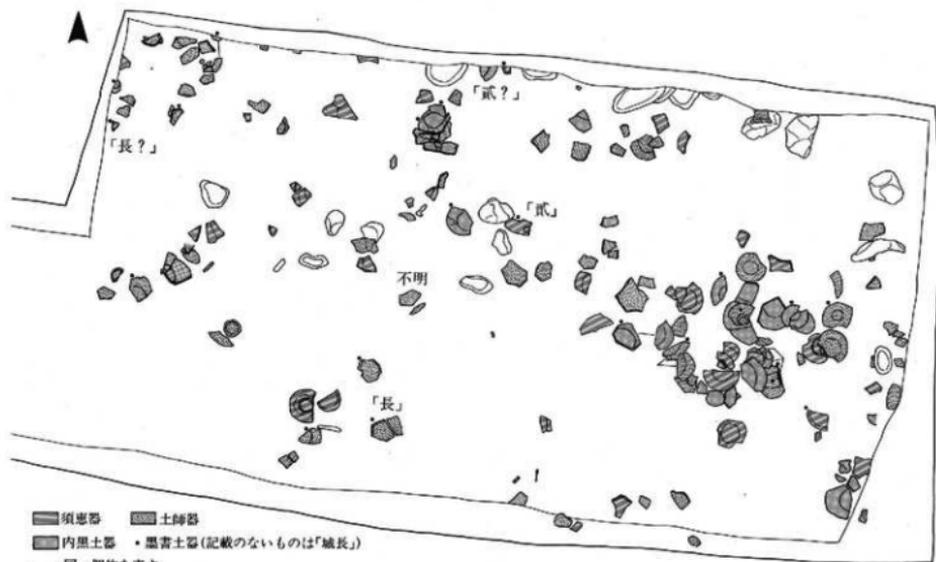
	出土位置	取文	類別	器種	種別	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
65	56T	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.0	4.15	5.3	糸切り
66	56T	土口	土師器	椀	墨書	外底	—	—	6.9	
67	56T	城長	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	7.4	ヘラ切り
68	56T	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	8.0	ヘラ切り
69	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	12.2	2.5	7.1	糸切り・赤彩
70	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.0	3.3	4.8	糸切り
71	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	3.8	5.0	糸切り
72	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.2	4.5	5.2	糸切り
73	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	—	—	5.2	糸切り
74	56TK	貳	須恵器	蓋	墨書	蓋内	15.7	3.5	—	
75	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	3.9	4.8	糸切り
76	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.4	3.9	5.0	糸切り
77	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.6	4.15	5.2	糸切り
78	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	—	—	7.5	糸切り・赤彩
79	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.0	4.4	5.2	糸切り
80	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	—	—	7.4	
81	56TK	貳小	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	5.6	
82	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.3	4.0	5.0	糸切り
83	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.8	4.0	5.9	糸切り
84	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外側面	11.8	3.8	5.6	糸切り
85	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	12.4	2.6	7.6	糸切り
86	56TK	長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	—	—	
87	56TK	「土口」	内黒	椀	墨書	外側面	13.2	3.8	6.0	糸切り
88	56TK	城長小	内黒	椀	墨書	外側面	12.0	3.5	4.8	糸切り
89	56TK	?	土師器	椀	墨書	外側面	12.2	5.6	4.1	糸切り
90	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外側面	12.4	4.2	5.5	糸切り
91	56TK	有成	須恵器	杯	墨書	外底	11.2	7.4	4.2	糸切り
92	56TK	?	土師器	椀	墨書	外底	—	—	4.0	糸切り
93	56TK	?	内黒	椀	墨書	外側面	16.8	—	—	
94	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	—	—	5.9	糸切り
95	56TK	城小	内黒	椀	墨書	外側面	12.6	—	—	
96	56TK	?	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	—	—	

任海宮田遺跡墨書土器一覽 3

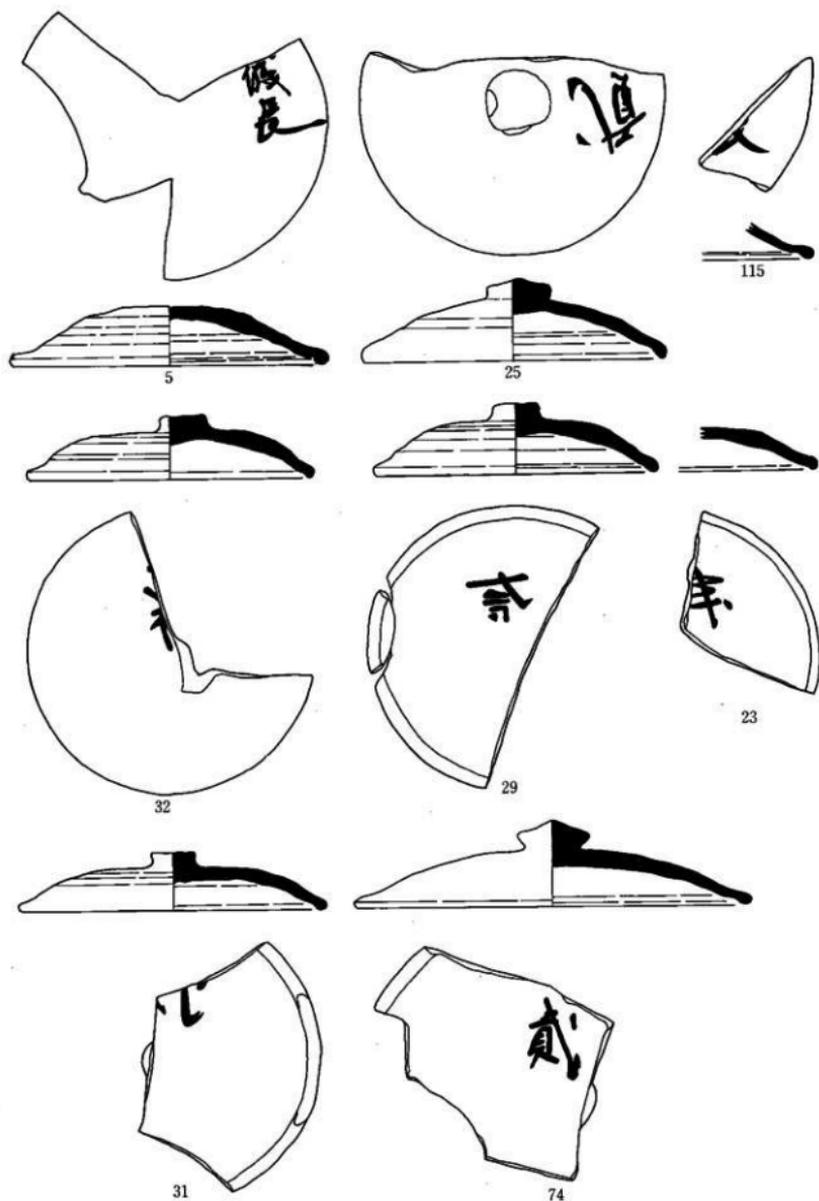
	出土位置	取文	種別	器種	種別	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
65	56T	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.0	4.15	5.3	糸切り
66	56T	土口	土師器	椀	墨書	外底	—	—	6.9	
67	56T	城長	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	7.4	ヘラ切り
68	56T	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	8.0	ヘラ切り
69	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	12.2	2.5	7.1	糸切り・赤影
70	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.0	3.3	4.8	糸切り
71	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	3.8	5.0	糸切り
72	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.2	4.5	5.2	糸切り
73	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	—	—	5.2	糸切り
74	56TK	貳	須恵器	蓋	墨書	蓋内	15.7	3.5	—	
75	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	3.9	4.8	糸切り
76	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	12.4	3.9	5.0	糸切り
77	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.6	4.15	5.2	糸切り
78	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	—	—	7.5	糸切り・赤影
79	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	13.0	4.4	5.2	糸切り
80	56TK	城長	内黒	椀	墨書	外側面	—	—	7.4	
81	56TK	貳カ	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	5.6	
82	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.3	4.0	5.0	糸切り
83	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.8	4.0	5.9	糸切り
84	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外側面	11.8	3.8	5.6	糸切り
85	56TK	城長	土師器	皿	墨書	外底	12.4	2.6	7.6	糸切り
86	56TK	長	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	—	—	
87	56TK	「土口」	内黒	椀	墨書	外側面	13.2	3.8	6.0	糸切り
88	56TK	城長小	内黒	椀	墨書	外側面	12.0	3.5	4.8	糸切り
89	56TK	?	土師器	椀	墨書	外側面	12.2	5.6	4.1	糸切り
90	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外側面	12.4	4.2	5.5	糸切り
91	56TK	有成	須恵器	杆	墨書	外底	11.2	7.4	4.2	糸切り
92	56TK	?	土師器	椀	墨書	外底	—	—	4.0	糸切り
93	56TK	?	内黒	椀	墨書	外側面	16.8	—	—	
94	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	—	—	5.9	糸切り
95	56TK	城カ	内黒	椀	墨書	外側面	12.6	—	—	
96	56TK	?	内黒	椀	墨書	外側面	12.8	—	—	

任海宮田遺跡墨書土器一覽 4

	出土位置	取文	種別	器種	類別	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
97	56TK	(城)長	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	7.3	ヘラ切り
98	56TK	口長	内黒	椀	墨書	外側面	11.2	—	—	
99	56TK	式	須恵器	蓋	墨書	内蓋	11.1	2.7	—	
100	56T	城小	土師器	皿	墨書	外底	—	—	—	赤彩
101	56T	?	土師器	椀	墨書	外側面	11.6	—	—	
102	57T	貳	須恵器	杯	墨書	外側面	12.8	—	—	
103	57T	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	—	
104	131T	?	須恵器	杯	墨書	内蓋	—	—	—	
105	56T	?	須恵器	蓋	墨書	内蓋	15.1	—	—	
106	56T	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	5.6	糸切り
107	56T	口音寺	土師器	?	墨書	外底	—	—	4.6	
108	56TK	?	土師器	椀	墨書	外側面	11.9	—	—	
109	56TK	城長	土師器	椀	墨書	外底	12.4	4.1	4.6	糸切り
110	56T	城	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	6.0	ヘラ切り
111	56TK	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	7.4	ヘラ切り
112	56T	?	須恵器	杯	墨書	外底	—	—	8.3	ヘラ切り
113	56T	?	須恵器	蓋	墨書	外側面	—	—	—	
114	56TK	?	土師器	椀	墨書	外底	—	—	6.4	糸切り
115	56T	長小	須恵器	蓋	墨書	外蓋	13.6	—	—	
116	56T	?	土師器	甕	墨書	外体部	—	—	—	
117	56T	?	土師器	椀	墨書	外側面	—	—	—	
118	56T	?	土師器	椀	墨書	外底	—	—	6.4	糸切り
119	56T	?	土師器	甕	墨書	外体部	—	—	—	
120	56T	?	土師器	甕	墨書	外体部	—	—	—	
121	56T	次小	内黒	椀	墨書	外側面	—	—	—	
122	56T	?	内黒	椀	墨書	外側面	—	—	—	
123	56T	?	内黒	椀	墨書	外底	—	—	—	
124	56T	?	内黒	椀	墨書	外側面	—	—	—	
125	56T	城長	内黒	椀	墨書	外側面	18.4	5.85	6.8	



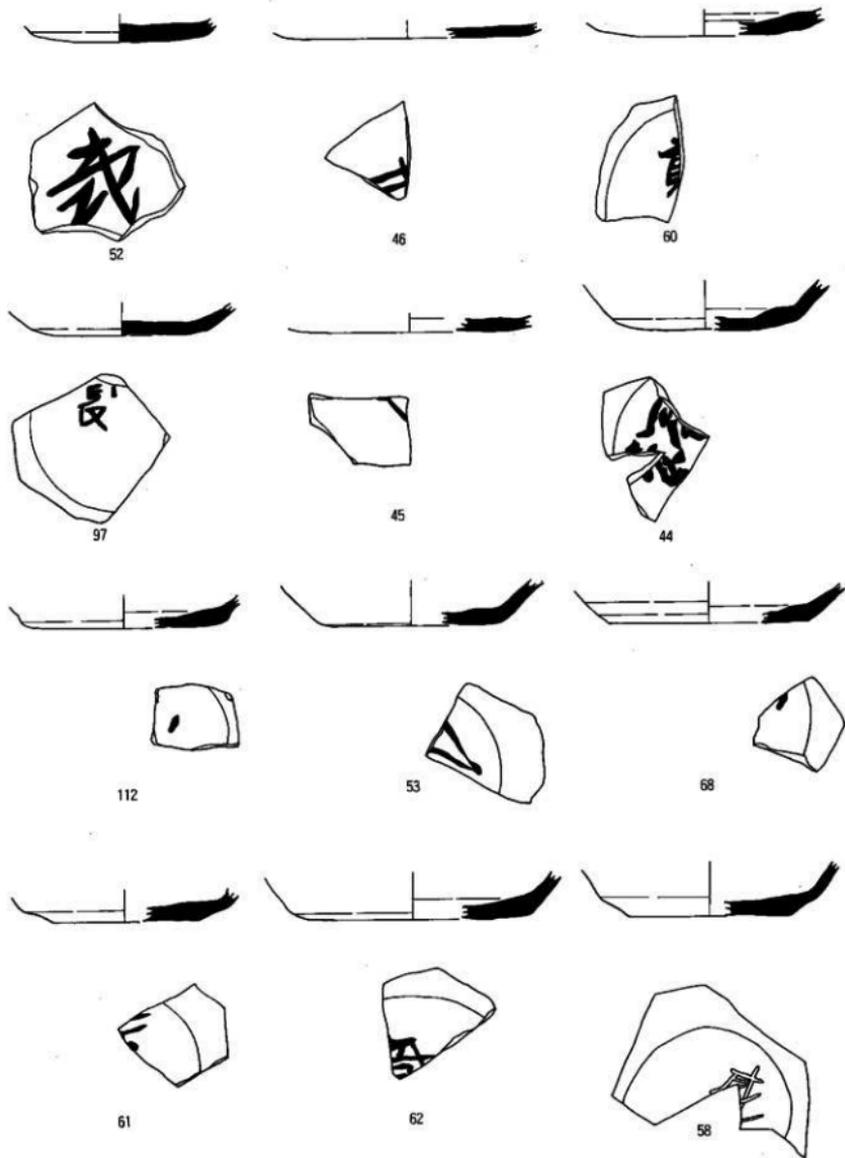
第11図 56T遺物出土状況 (1:20) 上図: 包含層遺物出土状況・下図: 遺構内遺物出土状況



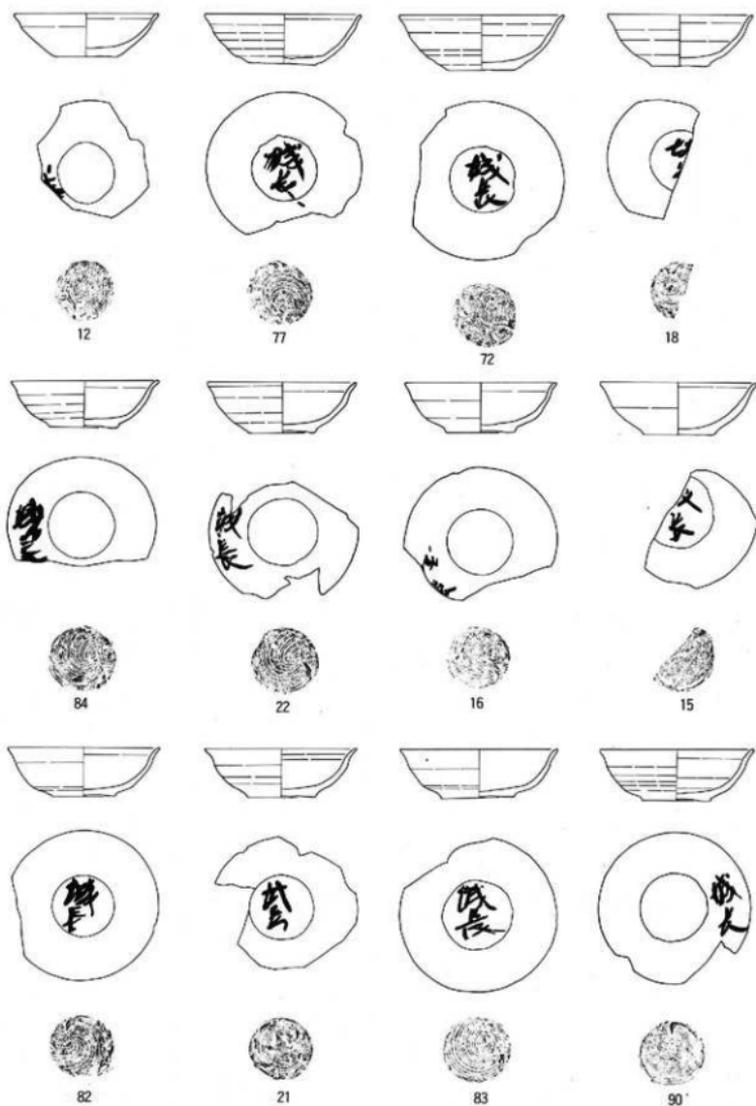
第12圖 墨書土器実測圖 須惠器 (1:2)



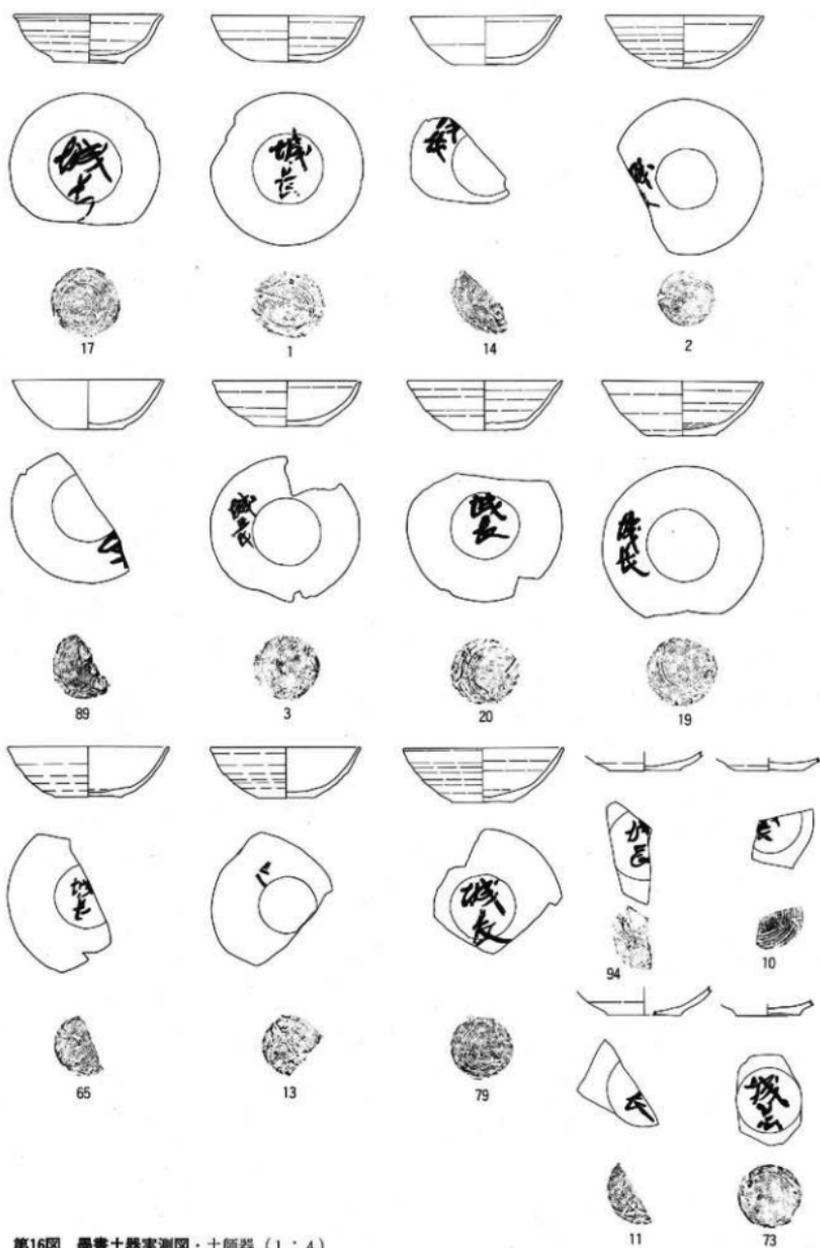
第13图 墨书土器实例图 须惠器 (1:2)



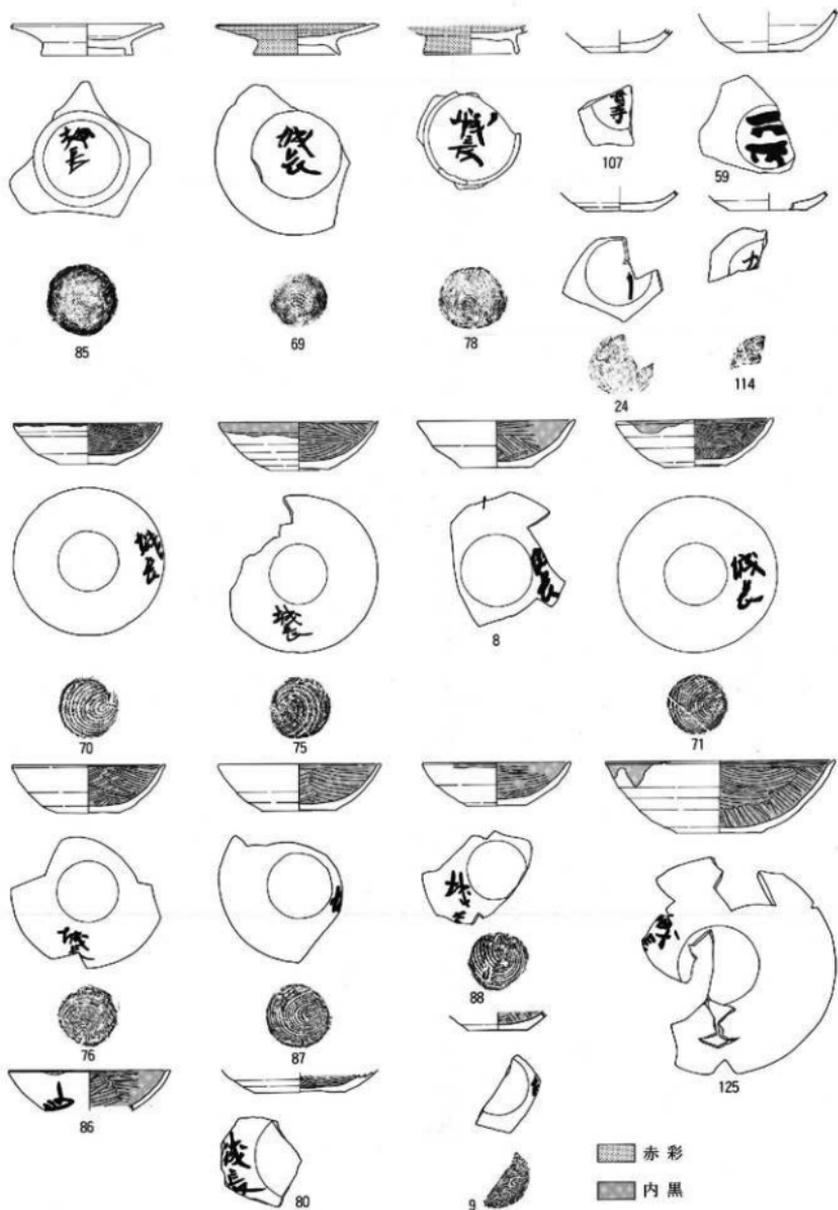
第14図 墨書土器・ヘラ書土器実測図・須恵器（1：2）



第15圖 墨書土器実測図・土師器 (1:4)



第16图 墨书土器实测图·土师器 (1:4)



第17図 墨書土器実測図・土師器、内黒土器（1：4）



遺跡周辺の航空写真 (1 : 10,000)



56T 遺物出土状況



56T 土層状況



56T 遺物出土状況



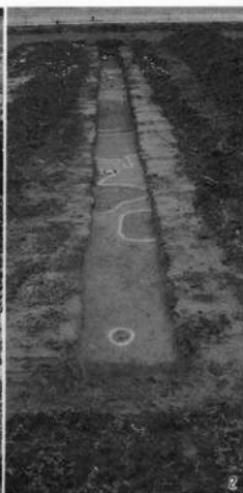
A地区

- 1. 4 24T
- 2. 26T(西より)
- 3. 49T(北より)
- 5. 20T 井戸跡



B地区

- 1. 58T(東より)
- 2. 61T(東より)
- 3. 86T(東より)
- 4. 81T土層図(南より)
- 5. 61T土層図(南より)
- 6. 57T(北より)



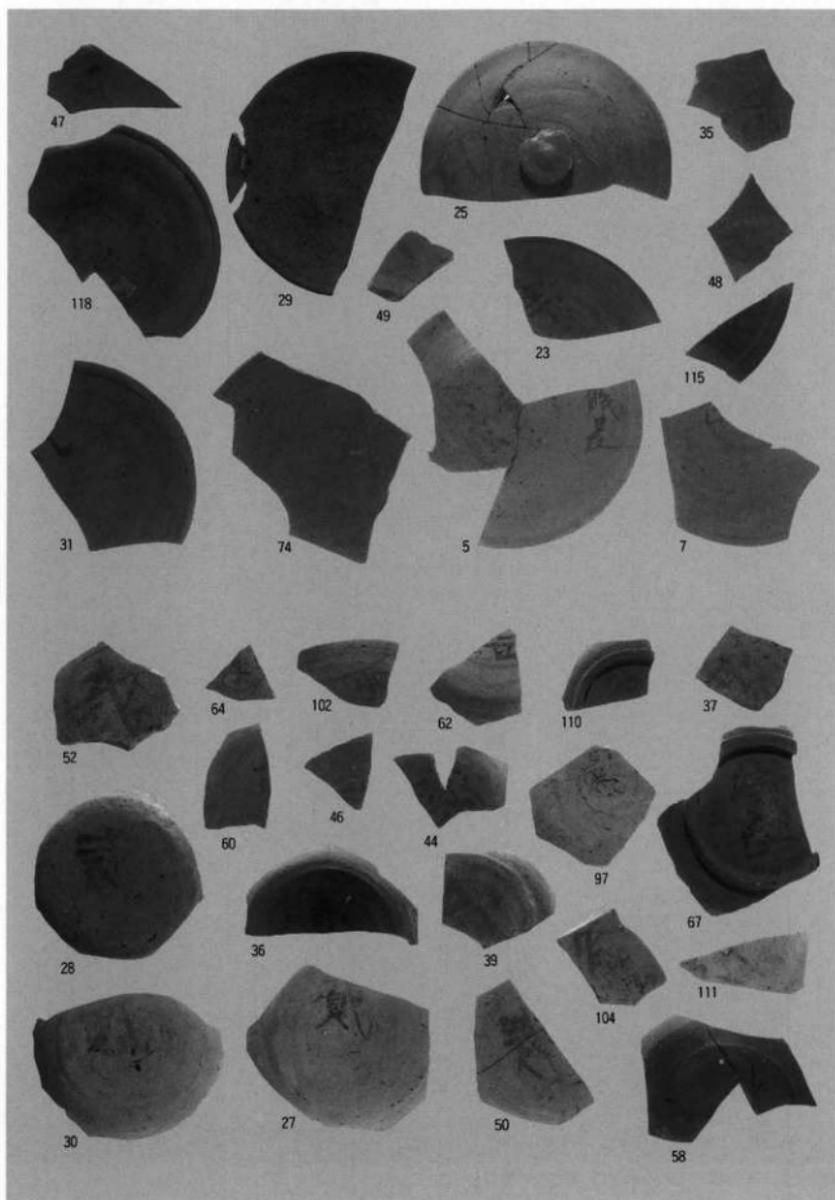
C地区

1. 78T
2. 100T (東より)
3. 97T (東より)
4. 11T (西より)
5. 109T (北より)
6. 96T (南より)

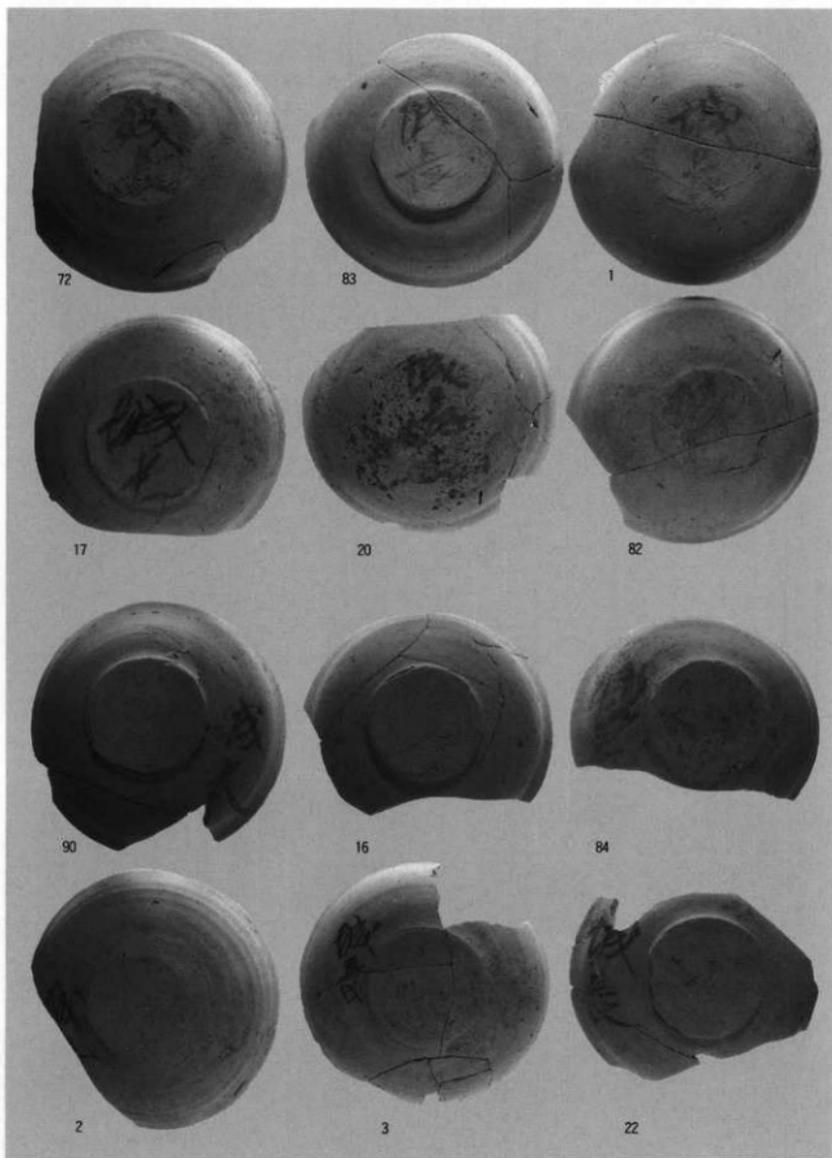


D地区

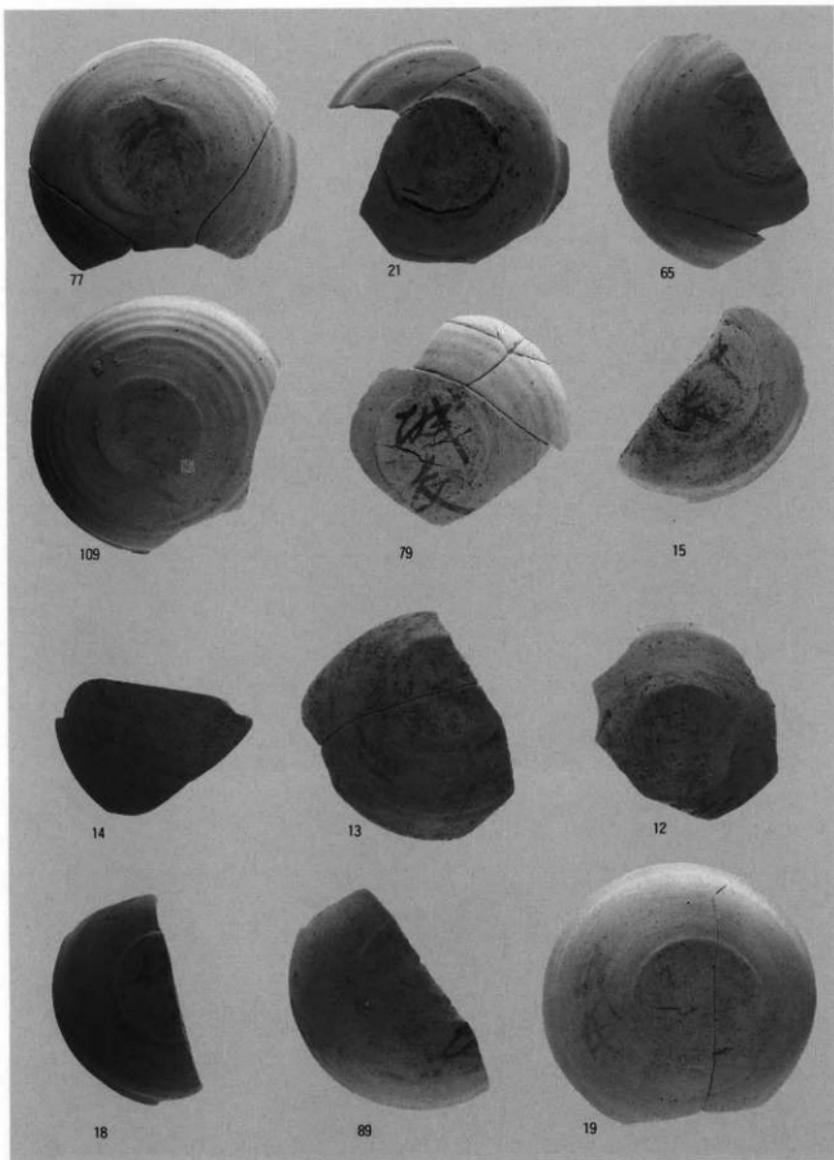
1. 125T(南より)
2. 128T(東より)
3. 136T(南より)
4. 147T(東より)
5. 140T(東より)



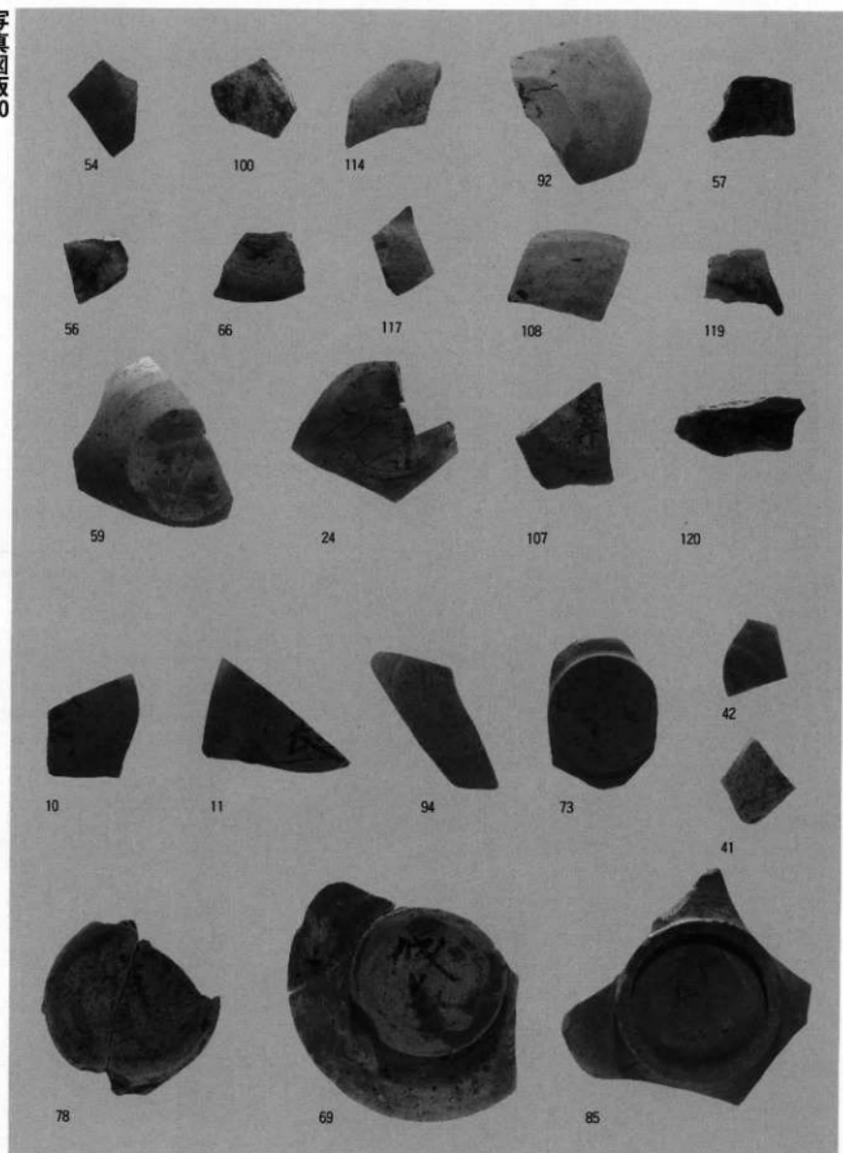
墨書土器・ヘラ書土器・須恵器(1) (102は57T、104は131T、他は56T、58のみヘラ書) 番号は一覧表と一致



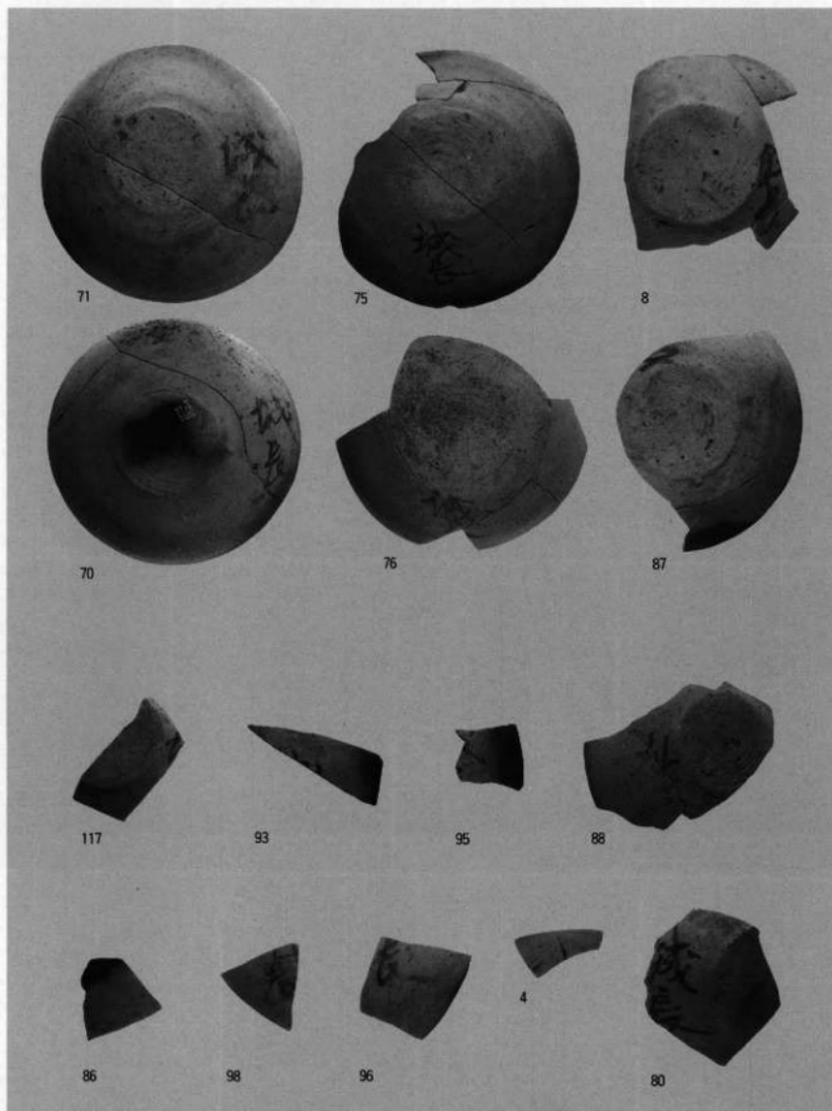
墨書土器・土師器(1) (すべて56T) 番号は一覧表と一致



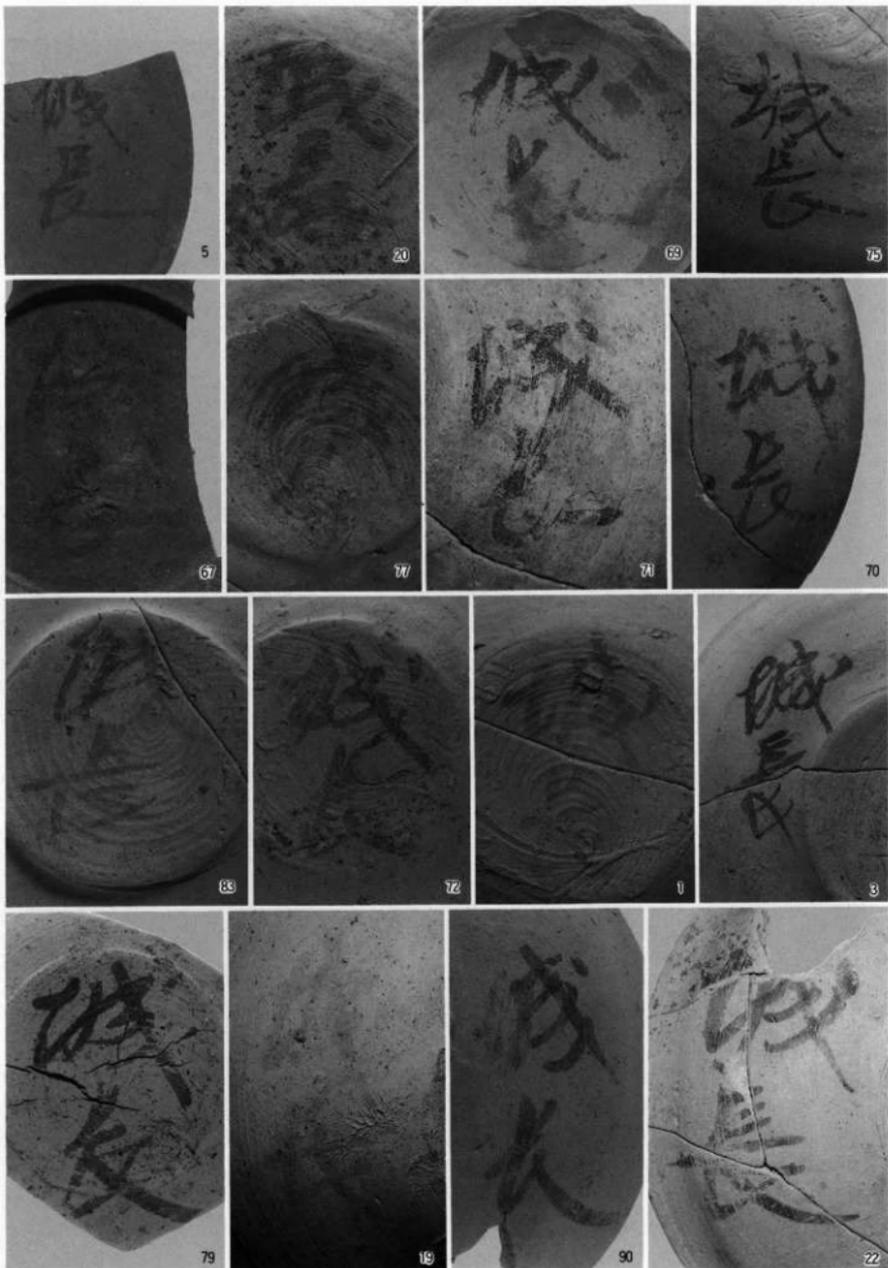
墨書土器・土師器(2) (すべて56T) 番号は一覧表と一致



墨書土器・土師器(3) (すべて56T) 番号は一覧表と一致



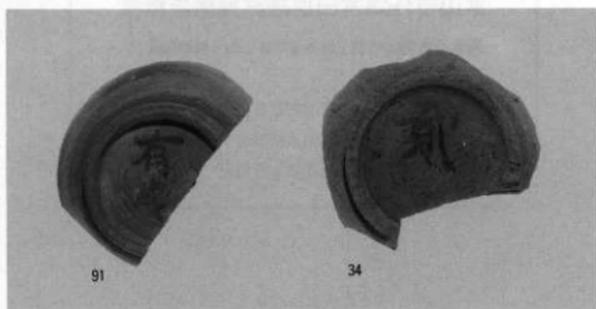
黒書土器・内黒土器（すべて56T）番号は一覧表と一致



「城長」墨書土器 須恵器 (5、67)、土師器 (20、69、77、83、72、1、3、79、19、22、90)、内黒土器 (71、70、75)
 番号は一覧表と一致

報告書抄録

ふりがな	とやましとうみみやたいせきしくつちょうさがいよう							
書名	富山市任海宮田遺跡試掘調査概要							
シリーズ名	県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査							
シリーズ番号	(3)							
編著者名	堀沢祐一、近藤顯子							
編集機関	富山市教育委員会							
所在地	〒930 富山県富山市新桜町7番38号 TEL0764-43-2138							
発行年月日	西暦 1998年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 (対象) m ²	調査原因
任海宮田遺跡	富山県富山市任海	16201	501	36度 37分 50秒	137度 12分 17秒	19970807) 19980331	5,631m ² (211.300)	県営公害防除特別 土地改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
任海宮田遺跡	集落跡	奈良～平安 中世・近世	竪穴住居、掘 立柱建物、井 戸溝、穴	須恵器、土師器、土錘、製 塩土器、鉄製品、内黒土器、 墨書土器、ヘラ書土器、土 師質土器、珠洲焼、青磁、 五輪塔、砥石、越中瀬戸焼、 近世陶磁器			平安時代の竪穴住居など から墨書土器が125点出 土し、そのうち「城長」 と書かれたものは53点。	



墨書土器・須恵器(2) (56T) 番号は一覧表と一致

写真図版
13

富山市任海宮田遺跡試掘調査概要

— 県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査(3) —

編集・発行 富山市教育委員会
富山市新桜町7番38号

発行日 1998年3月31日